

中期経営計画の進捗

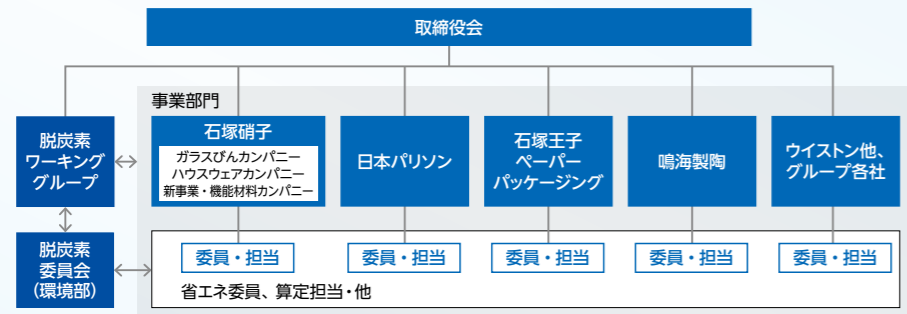
目標 3 2030年度CO<sub>2</sub>排出量50%削減に向けたロードマップ作りと実践

「2024年度中期経営計画」において、2030年度にCO<sub>2</sub>排出量50%削減(2015年度比)の削減目標を設定しましたが、2023年6月に基準年を見直し、SBT認定を受けました。SBT認定を取得し世界と歩調を合わせた脱炭素社会の実現に取り組みます。

新目標(SBT認定取得)



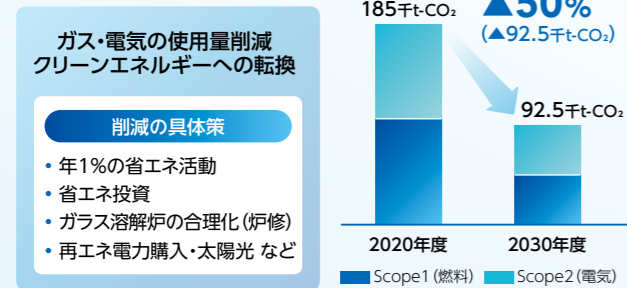
マネジメント体制図



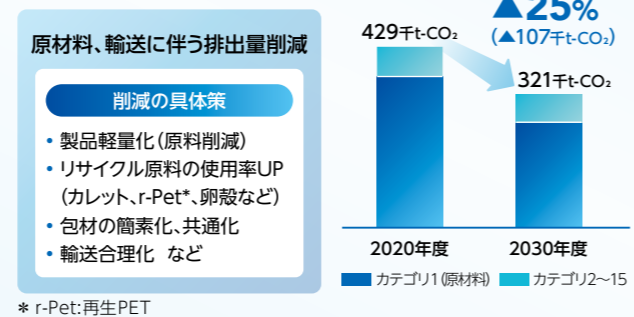
削減計画

従前から進めている省エネ活動でエネルギー使用量前年度比1%削減の目標を掲げ、全社員で脱炭素の取り組みを進めています。太陽光発電の導入や再生可能エネルギーの購入、省エネ型設備への転換は、大きな投資が必要なため、全社施策として推進します。2023年4月にはハウスウェアカンパニーで溶融炉を2炉から1炉体制にし、生産量に見合った溶融炉に合理化しています。

Scope 1+2の削減計画



Scope 3の削減計画



Voice 脱炭素のトレンドを逃がさず事業機会創出のきっかけに



経営企画部 部付部長 杉浦 昭宏

ガラス製品、陶磁器の製造では、生産炉を長時間高温で維持しなければならないため、当社の事業はエネルギー多消費産業という側面を持ちます。昨今のようにエネルギー価格が高騰すれば事業の採算性に大きな影響がおよぶため、従前から燃焼効率の向上などの取り組みを行い、エネルギー消費量の削減とともにCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んできました。

今後、化石燃料への規制強化の流れが予想され、当社にとって重大な事業へのリスクとなります。そのためこのリスクに対して先手を打っていかねばならないと認識しています。

すでに飲料メーカーのお客さまからはCO<sub>2</sub>排出量削減に関しての要請があります。多くのお客さまが2050年カーボンニュートラル実現に向けてCO<sub>2</sub>排出量削減を進めており、当社はそのサプライチェーンの1社としてこれに応えていかねば事業機会を失う可能性があります。

リスク対策と同時に、事業機会創出の観点での事業計画も進めています。その一つが姫路工場跡でのリサイクルプリフォーム(PETボトルの中間製品)の新工場の稼働です。この工場ではCO<sub>2</sub>排出量削減につながる新しい製造プロセスを導入し、次世代型のリサイクルプリフォーム工場として、ニーズが拡大しているリサイクルPETボトルの需要に対応していきます。こうした取り組みを進めることで長期ビジョンに掲げた「環境と調和した持続可能な未来社会への貢献」を実現していきます。

石塚硝子グループのサステナブル経営

サステナブル経営の考え方と社会に提供する価値

企業の持続的な存続は、社会に対する貢献・社会の持続的な発展とともにあるという考えのもと、創業200年を超える歴史のなかで受け継がれ培われてきた信頼とともに、企業としてさらなる発展を続け、企業価値の向上と社会に貢献できる企業を目指します。

企業理念の実現

〈わたしたちの使命〉  
くらしに彩り、豊かさと安心をお届けします。

〈わたしたちのビジョン〉  
価値あるモノづくりとともに、社会で輝くヒトを育て、未来へ向かうユメを築きます。

社会に提供する4つの価値



事業活動とサステナビリティ

